

丸一鋼管グループにおける気候変動によるリスク/機会

項目			時間軸	シナリオ	リスク/機会	リスク/機会 概要	事業 インパクト	対応策/評価
大分類	中分類	小分類						
移行	政策・規制	炭素税・排出権取引	中期～長期	1.5℃	リスク	・炭素税やエネルギー、資源などの価格上昇によってコストが増加する ・関連法規への対応のためのコストが増加する	大	省エネ活動の推進、低炭素エネルギーへの転換再エネ由来電力の活用等によるCO2排出量削減
		再エネ政策	短期～長期	1.5～2℃	リスク	再エネ由来電力の需要増によって電力調達コストが増加する	中	省エネ活動の推進、高効率設備の導入など
	技術	低炭素技術の進展	短期～長期	1.5～2℃	リスク	自動車・二輪車のEV化の進展によって排気管などの内燃機関車特有部品の需要が減少する	－	内燃機関車専用部品の需要は減少する一方で、グローバルにおける自動車・二輪車全体の需要は増加することが予想される。
		次世代技術の進展	短期～長期	1.5～2℃	機会	デジタル化加速に伴う半導体需要の増加によってBA管、EP管需要が増加する	大	BA管・EP管需要の捕捉 ステンレス鋼管事業の拡大
	市場	エネルギーミックスの変化	中期～長期	1.5～2℃	機会	新エネルギー（水素・アンモニア）の需要増加によってステンレス配管需要が増加する（水素ステーション、水素燃料船、アンモニア燃料船など）	大	水素・アンモニア需要の捕捉 ステンレス鋼管事業の拡大
		原材料コストの変化	短期～長期	1.5～2℃	リスク	国内高炉メーカーにおける革新的製鉄プロセスの推進に向けた研究開発、設備導入コスト増加によって原材料コイル価格が上昇する	大	原材料調達の多様化 サプライヤーとのパートナーシップ強化
		原材料コストの変化	短期～長期	1.5～2℃	機会	サプライヤーとの強固なパートナーシップにより、他社と比較して原材料コストの変動や上昇を抑制することで相対的な優位性が向上する。	－	原材料調達の多様化 サプライヤーとのパートナーシップ強化
	評判	顧客の評判変化	中期～長期	1.5～2℃	機会	より低炭素な製品の需要が増加する。	－	低炭素製品開発の推進
物理	急性	異常気象の激甚化（台風、豪雨、土砂、高潮等）	中期～長期	4℃	リスク	・生産拠点やサプライチェーンへ甚大な影響を及ぼし、生産活動や物流機能が停止する ・異常気象への対策コストが増加する	中	工場建屋入口に防潮扉設置や強風対策のための補強ポスト設置 電気制御盤等の嵩上げ
	慢性	平均気温の上昇	中期～長期	4℃	リスク	空調負荷が増加し、エネルギーコストが増加する。	－	工場建屋屋根の二重屋根化 工場建屋天井への遮熱シート取付け 大型ファンの設置
		労働・施工条件悪化	中期～長期	4℃	リスク	慢性的な気温上昇によって生産性低下や従業員の安全衛生に影響が及ぶ	－	工場内空調設備の導入

※上記の表の時間軸は短期：0～3年、中期：4～10年、長期：11年～としております。

※事業インパクト評価は現時点（2024年10月）で入手可能なパラメータを元に実施しております。

※事業インパクト評価欄の表示は、今後の戦略等を検討する上での重要性の認識を相対的に示すものであって、必ずしも当社の財務状況全体に対する影響度を表すものではありません。

※事業インパクト評価欄「－」の表示は、現時点で評価が困難ないし相対的に重要性が低いことを意味します。